

## 令和6年度第2回熊本市社会福祉審議会地域福祉専門分科会議事録

### 【日時】

令和6年（2024年）8月28日（水） 13:30～15:00

### 【場所】

熊本市役所 4階モニタ一室

### 【出席委員（五十音順・敬称略）】

伊藤 良高 堅島 陽子 古賀 倫嗣 鳥崎 一郎 永田 賢正  
野口 志津子 原 清美 樋口 務 細西 恭代 水田 博志  
八塚 夏樹 金澤 知徳

(以上12名)

### 【欠席委員（五十音順・敬称略）】

塘林 敬規

(以上1名)

### 【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 席次表
- ・ 【資料1】第5次熊本市地域福祉計画・地域福祉活動計画(骨子案)
- ・ 【資料2】参考資料

### 【議事】

- ・ 事務局報告
- ・ 意見聴取

### 【傍聴者】

なし

議事進行：古賀会長

○事務局報告

- ・ 的場健康福祉政策課長から「【資料1】第5次熊本市地域福祉計画・地域福祉活動計画(骨子案)」に沿って説明。

○意見聴取

古賀会長	<p>まず初めに、事務局から説明があったとおり、次回から素案づくりとなるため、本日の会議の目的は説明された骨子案・基本的な考え方・方向性、これらについて議論し、意見交換をしていくこととなるのでご承知おき頂けるとありがたい。</p> <p>では、説明のあった資料1、資料2についてご意見やご質問等あれば発言いただきたい。</p>
鳥崎委員	<p>基本方針Ⅱに参画しやすい仕組みづくり、とあるがこれを新しく追加した理由は何なのか。</p>
的場課長	<p>第4次計画を振り返ったときに、持続可能な地域共生社会・地域支援体制、担い手不足、後継者育成という点に大きな課題があると思った。担い手の意識を高めることも勿論実施していくが、まずは参加してもらえる仕組みづくりにも焦点を置き、担い手の負担軽減と共に担い手の確保・定着化につなげていきたいと考えている。基本方針Ⅱを新しく新設したというよりは、基本方針ⅡとⅢを改めて再構築したという認識でいる。</p>
鳥崎委員	<p>基本方針Ⅱの参画しやすい仕組みづくりというのは大変良いと思うが、主語が分からないと感じている。私は各校区社協の代表として、これをいったい誰がやるのだろう、と勝手に思う。</p>
的場課長	<p>校区社協の中でも人材不足が生じているということは伺っており、だれが、という部分が気になられているかと思うが、主語の部分については今後素案の中で整理していくことになると思う。ただ、16ページにも記載がある通り、まずは参画しやすい仕組みづくりを行うことで、例えば校区社協や自治会の活動に参加して頂き、その参加者たちに次世代への架け橋となって頂けるような、起点をつくりたいと考えている。</p>
野口委員	<p>熊本市には第8次総合計画があり、その理念を踏まえてこの地域福祉計画を策定しているものと認識しているが、福祉以外にも多くの計画があると思う。参画の分野の問題となると、福祉だけでなく、まちづくりなど、他の関連する部門もあるので、そういった他の部門との協働・連絡・連携をきちんと計画の中で整理しておけばより良い計画となると思う。</p>
堅島委員	<p>今の子育て世代は共働きが多く、昔のようにPTAや子育てサークルに入って地域づくりに関わるような機会が減っている。運営できているのは70</p>

	<p>歳を過ぎたようなお年寄りで構成される自治会や老人会で、そこから地域の子育て世代や地域の若い人に繋げようとしても、仕事が忙しいなどの理由でボランティアに参加してもらうことも難しく、これから先どうなっていくのだろうかとても悩んでいる。</p>
古賀会長	<p>堅島委員の言うとおりに、PTAや子育てサークルを通して地域と関わるといったコースが、今はどんどん減ってきており、内部の人間の気力もなくなってきたという現状がある。</p>
金澤委員	<p>私は、包括支援センター（ささえりあ）の連絡協議会という立場で参加させて頂いている。ささえりあでは、市全体で活動することはもちろんだが、各区の担当の方々と、各区において包括支援センターでの勉強会や地域の民生委員・児童委員の方々と集いをする等活動している。26ページにも進行管理・評価等とあるが、各区において相談する相手、見える関係等が初めて地域福祉というものが身近なものとなってくことを考えると、人口70万人という市全体を一括りにした際、この熊本市全体の計画は旗振りの役割ではあると思うが、区の中でどう進捗管理をしていく計画なのか、区の間で競い合う・真似し合うような関係が地域福祉の中では重要なことなのではないかと思う。地域性もあるため全て同じとはいかないとは思いますが、市としての施策の中で区という現場へこの施策をどう落とししていくのか、また区からのフィードバックを市としてどう支援していくのか、という点がこの26ページにあるPDCAサイクルには重要であると思う。区として、西区はこういう風にやろう、中央区はこうしよう、というように議論しやすくするための大きな旗振りを書きぶりとして残していただければ、非常に現実的になっていくのではないかと思う。</p>
古賀会長	<p>今の議論の中で、野口委員から市役所庁舎内の各関係部署と連携・協働、このあたりをどう見せたらいいか、どういう形での工夫ができるかと、その辺りのところで事務局のお考えがあればお知らせください。</p> <p>そして、堅島委員のお話をイメージ的に言うと、この計画とは熊本市民一般という層、担い手という2番目の層、3番目が各種団体・役員リーダーと3層構造という風に考えるといいと思う。そうすると一般市民と担い手の間に断層があり、ものすごいハードルになってしまったところだが、今ご指摘されたところで、そういった3層構造を踏まえて担い手の育成をどうするかという発想が多分必要になってくるということをご意見の中で示唆されていたんだろうと思う。</p> <p>そして金澤委員からは市全体の計画としては分かったけれども、区は5区あるというところで、これについては参考までに申し上げますと北九州方式というのがよく言われる。校区社協、そして区、そして市全体この3層</p>

	<p>構造でどうやって繋げていくのかというのが北九州方式である。そういったものをイメージするとしても、区をそういう風に位置付けていくのかというところで、事務局にお考えがあればお知らせください。以上、3委員の意見について事務局の方でいかがでしょうか。</p>
<p>的場課長</p>	<p>3点お尋ね頂いたが、まず野口委員のご指摘については、庁内にしっかりと各分野の計画がございます。本日も、健康づくり推進課や高齢福祉課、こども局など庁内各課のいろんな分野の課に参加頂いているが、計画の位置づけの中でもお話ししたとおり福祉分野にまたがって共通して取り組むようなものについては我々として計画にしっかり記載していく。</p> <p>特に地域に関わっていく中で、様々な問題・課題が障がい福祉や高齢福祉、こどもの分野であるが、そういった問題の中で人々が取り残されることがないように、必要な支援が受けられるように、連携をしっかりとっていきたいと考えている。その庁内の連携が見えるように、庁内の体制及び連携について計画の中に記載していく方針である。</p> <p>2点目は、堅島委員のご意見について、古賀会長からも補足を頂いたが、いわゆる3層構造、今のところ余り参加されていないような市民の人たち、参加し始めたような人たち、今も実際に役員として御苦労されている人たち、という3層があるということで、こちらの方については今回の基本方針ⅠからⅢのところでもそういった考えで整理をしている。そのため基本方針Ⅰでしっかり啓発をして、Ⅱで実際参加してもらい、Ⅲで繋ぎとめてしっかり後継者にと、理想論とも思うが計画としてそういった形で整理させて頂いた。その上で、ご指摘のとおり、子ども会やPTAなどがコロナ禍のあおりを受けて活動が滞っている中で、皆様が経験されたような地域の担い手になるようなコースが無くなっているという現状は我々もしっかり認識しており、それに代わるコースとして何かあるのか、今後素案を作っていく中で具体化に向けて検討していければと考えている。</p> <p>最後に3点目の金澤委員からご発言があった、区のことについては、他都市において区ごとにこの地域福祉計画のようなものを作っている事例は承知している。我々としては今、この地域福祉計画の中で共通して取り組むような話、民生委員・児童委員や校区社協、町内自治会等、各区にそれぞれ共通しておられるような方々をどのように育て、どう支援し負担を軽減していくのか、ということはこの計画の中で記載していく。当然、区ごとに特色があるため、この地域福祉の分野においても区ごとの違いが出てくると思う。我々も区ごとの課題をしっかりと把握しながら計画の進捗管理をしていければと考えているし、素案の中でしっかり記載をしていきたいと思う。</p>

古賀会長	書きぶりの中で具体的に検討を進めさせて頂きたい。他にいかがでしょうか。基本的な考え方等について、ご意見頂けるとありがたい。
伊藤委員	<p>こども・若者支援という観点から少し触れてみたいと思う。今回の計画では、今までに比べてかなりこども・若者・子育て支援という部分が盛り込まれており、大変感謝している。</p> <p>基本的にこの骨子案で反対というところはないが、ぱっと見たときにこの地域福祉というものが、若者・子育て世代に今一つピンと来ないという部分があり、例えば4ページのところに健康やこども、高齢・障がいと一応分け方があるが、若者・子育て世代、当事者が見たときにどういうプランに見えるのか、そういう見え方の工夫をしていただきたい。と言うのも、今回の支える人を増やしていく、ということは私もその通りだと思っていて、ただ、どのあたりから考えていくのかということを見ると、例えば小学生や中学生、高校生、大学生とあってもやはり小学生がこの計画をそのまま読むということはないと思う。簡単なリーフレットやパンフレットで地域というのはこういうものだということに身近に考えるようなフリガナ付きの分かりやすいもの、あるいはSNS等で情報発信をしていくと、新たな繋がりというものが広がっていくのではないかなと思う。</p> <p>孤立・孤独問題についても、子育ての孤独など、そういう風な広がりを持った対応というか、それぞれの当事者にとって分かりやすい表現・工夫をして頂きたい。</p>
古賀会長	<p>最後に伊藤委員がおっしゃったように、前回の専門分科会から孤独・孤立は出てきているが、中々イメージが湧きづらい。どうしても一人暮らしの高齢者だとかそういうイメージであって、孤独な子育てとか、あるいは9月1日は子どもが命を考える日でもあるわけで、そういった意味では、子育てやこどもも孤独・孤立問題に含まれているということ。</p> <p>最近、インターネットなど見ると、「墓じまい」というキーワードをよく目にするので本当に驚いた。いずれ地域福祉計画にも「墓じまい」という項目が出てくる時代になるのだろうと思う。今、無縁社会の話を議論しているので、そういったことも含めてどの世代にとっても孤独・孤立は関わってくると思うので、その辺りをどう見せるかということ、素案として提供されてきた際に確認していきたい。</p> <p>なお、14ページに今回の体系・基本方針が出てきているがこれは社会参画のはしごになっているという捉え方をして頂きたい。伊藤委員の発言で思い出したが、20年程前のロジャーハートという社会参画に関する有名な本がある。その中では、どういう風にしてこどもたちが世の中と繋がっていくのかということが書かれている。こどもも大人も含めた参画のステッ</p>

	<p>プ、そういったものも計画の説明の中に入れて、これまでの課題とのつながりが見えてくるのかなと思う。</p> <p>忘れてはいけないのは今の社会の1番の大きな問題が少子高齢化であって、その少子高齢化をどこが担っているかということ、市役所では健康福祉局なのだからもっと威張っていいだろうと思っている。先ほど庁舎内の連携・協働とあったが、第3次計画が実はよくできている。ここにおられる金澤委員も一緒だったが、当時市民協働課が出来たばかりの時に、市民協働という観点から整理して、それぞれのファクターやセクターごとの役割を示した図があった。第4次計画も大切であるし、とても良く出来ているのだが、第3次計画が担い手のことで一番葛藤したというか、試行錯誤した内容になっているので、それも合わせて素案づくりの中で検討いただきたい。</p>
樋口委員	<p>参画しやすい仕組みづくりの中に地域住民や関係機関との連携ということが結構出ているが、その主体の1つであるNP0についても、連携し、また合併するなどして組織的に新たにリノベーションする時期が来ているのかな、という気がしている。そのための場を提供するというのであれば、本日永田委員もいらっしゃっているが、あいぽーとの位置づけを明確にして、当事者同士、若しくはやりたい同士を結び付けて新しい組織を作る、というような場も必要かと思う。その辺も素案に盛り込んでほしい。</p>
永田委員	<p>最近熊本市所管のNP0法人を対象にアンケート調査を実施した。今後の法人運営について、4年前に調査したときは成長拡大という意見が多かったが、今年改めて同じような質問をしたところ、成長拡大という意見が減り、現状維持という意見が逆に増えてきている。そのような状況の中で、市民活動を維持・活性化していくには法人合併や法人同士の連携というものを検討し、推進していくような取組もあいぽーととして必要かと思っている。NP0法人単体で拡大成長するというのは、人材がないということもあって非常に難しい状況に来ているということは確かだと思う。</p>
鳥崎委員	<p>先程の古賀会長のお話でとても頭の中が整理されたところであり、いわゆる3層構造、一般の人たち、私達のようにある程度活動されている人たち、樋口委員のようなNP0で特定のことをされている人たちがいて、ここに参画のはしごという、これは確かに一般の人にとってとても重要なプロセスだな、ということがよく分かった。</p> <p>この中にやはり私ども校区社協や民生委員も関わっていかないといけない。これも先程の質問で少し触れたが、これを誰がやるのか、というところがかなり気になったが、やはり現実には今回の地域福祉計画を実施する立場にある熊本市社協ではないかなと思う。資料集のアンケートの結果に</p>

	<p>よると、民生委員が市社協にどんなことを望みますか、校区社協は市社協に何を望みますか、というものの回答が載っているが、わかりやすく言うと市社協、もっと仕掛けを頑張ってよ、という内容であった。</p> <p>市社協ははっきり言って頑張っているし、とてもよくやっていると思うのだが、いかんせん人が足りないとか、先程の北九州方式の話もあったが、区ごとに何かやるにしても、区事務所は結局実質的に2, 3人くらいで回している状況なので、区の中で、それぞれの校区社協でどんなことをやったらいいのか、そういった細かい検討や取組はできていない。さらに、NPOもたくさんあるのだが、そこを繋げるというようなところまでどうしても手が回らない。そういうところから現実を考えると、確かに一般の人を1人でも多く参加して頂くようにするというのはとても重要で、それをコーディネートする市社協の強化、簡単に言うと人とお金について第5次計画の中できちんと考えていかないといけないと思う。</p>
原 委員	<p>前回もお話したが、社会福祉協議会のボランティアセンターの属するボランティア団体とか個人ボランティアの数が一時期の1/4くらいに減っているような状況である。これは熊本市だけではなく、熊本県内の他の市町村に関しても同様である。これはコロナの影響も確かにあったが、先程も出ていた高齢化の問題と新しく人が入ってきていないということが理由に挙げられる。入ってきていないというか、団体登録しない、個人ボランティアに登録しない。SNS等を使って自分たちで調べて、自分たちでやっていこうという人が増えているのかなと思う。そうやっている人達に聞いたところ、ボランティアセンターを知らない、と答える人が結構おられる。</p> <p>私からの要望として、市社協は勿論のこと、その中にあるボランティアセンターの役割について、例えば、こういうことをやっている、こういう情報を与えられる、こういう支援をしている、といったことを大きく広報してほしい。</p> <p>現在、ボランティアセンターでは、定期的にボランティア講座、福祉講座、災害支援街頭募金、ボランティア週間における講演会等に力を入れているが、その上で継続的なスキルアップ講座もお願いしたい。</p> <p>また、大学生の中には自分たちでサークルを立ち上げて仲間と活動したり、個人でボランティアをしている方も多い。災害ボランティアにおいても大学生の方たちが多く参加されている。これは授業の一環としての参加もあるがとても良いことだと思う。</p> <p>これから、ボランティアセンターと共にボランティア連絡協議会も、活動されている団体や個人、大学等にお声がけなどして参加をお願いしていきたいと思っている。</p>

細西委員	<p>アンケート資料の中で、時間があればボランティア活動をやりたいという方がかなりいらっしゃるというところに、とても希望が見えると思った。子育てサークルや様々な地域の活動の中で、この方は次を担っていき、リーダーになれる方だなと思っても、どうしても仕事で時間が取れないとのことで、次に繋げていくことができない場面がある。このように時間があればやりたいという人がいらっしゃるのなら、難しいかもしれないが、企業に地域参加を促していくことも大事なのではないかと思う。</p>
古賀会長	<p>今のことで申し上げますと、企業によってはボランティア休暇制度というのがあり、PTAの会長をすると少し手当が出る会社もある。これを一番初めに行ったのは福岡市にあるお菓子屋さんで、そういった仕組みがいま認められてきている。</p> <p>それと先程お話があったように、PTAの役員をしたということはものすごい財産だと思う。PTA役員は大体が1年間の任期となっており、また小学校6年生の親御さんはある程度、自分がやらなくてはいけないかな、と思っているので、それをどう生かすかが大事。その層の中から比較的長続きする人が出てくるのが、PTA会報作り、PTA新聞を作るグループで、なぜかという熊日新聞コンクールに応募して表彰してもらえるから。失礼を承知で申し上げますが、新聞に載ったり、作った新聞が褒められたりするとやる気になる傾向がある。例えば自治会の仕事自体は出来ないが自治会の便りくらいは作りますよ、みたいな人に、自治会の中で活躍いただくことが重要。</p>
伊藤委員	<p>こういう報告書は割と堅苦しいというか、ちょっとしたコラムやメッセージなら皆さん結構読んでくださる。先程公務員のボランティアの話もあったが、例えばアフターファイブで働き方改革の中で新たな人生を目指しているとか、子育てがちょっと落ち着いてきた、あるいは仕事を退職した上でこんな風な活動をしています、というような方の声を集約して見える形にすると、自分もやってみようかなというきっかけになると思う。</p>
金澤委員	<p>医療をやっていると、校区社協の中で運動会などに呼ばれ、救護班や看護師の派遣等、手伝うことがある。社会福祉協議会の福祉という括りの話で、私は医療というのは福祉だと認識していたが、市社協や校区社協の中の私の名前は顧問や相談役となっていて、社協の中の一員として参加したつもりがそうではなかった。民生委員・児童委員の方々のアンケートでも医療機関での相談が1%と少々情けない結果もあるが、医師の中には相談を受けてくれる人が沢山いるので、そういった方々も巻き込むことで救われる、助かる部分もあるのでは、と思う。</p> <p>ぜひ熊本市の行政の方々の福祉という計画の中に、そういった医療との</p>

	<p>連携、連携というよりいわば共生している分野であるので、施策を統合していただきたい。</p>
永田委員	<p>今までも各委員から出た意見ではあるのだが、私はこの参画しやすい仕組みづくりが全てにおいてやはり大事であると思う。ただ同時に、とても難しいことだろうとも思う。やはり誰がするのか、ということを見ると、ただ行政がやれば良いという話でも無く、参画しやすい仕組みづくりを実現していく上でこれは地域でやる、これは行政で頑張る、など役割分担を明確にしないと難しいだろうと感じた。</p>
野口委員	<p>参画というところで、福祉的に考えると高齢者サロンとか育児サークルとかその辺になると思うが、地域の中では他にも人が沢山集まる状況がある。特に文化的なもの、地域の中で根付いている地蔵祭りだとかいろんな祭りなど、福祉的なものには参加できていなくてもそういう地域の集まりには参加する人がいる。その中で福祉の活動を紹介して進めていくと、理解がより深まっていくのかなと思う。</p> <p>先程の庁内の連携の部分は福祉的な連携だけでなく、それに関わる部分が庁内各課にあるならその部分での連携も含めて進めていくとより良いと思う。</p> <p>またもう1点、校区社協のメンバーは民生委員がほとんどで、市社協と民生委員は車の両輪というところで福祉活動を進めているが、やはり民生委員も活動の負担がかなり大きく、なり手不足も非常に大きな問題となっている。校区社協の役員などで民生委員は当然関わるものの、新たな組織・福祉を重点的に進めていく人たちがいないと、民生委員だけに頼っていくだけでは先細りとなる。金澤委員が発言していた医療分野やそれ以外の色々な分野の方に校区社協のメンバーになってもらい総合的に地域のことを考えて、まちづくりもその中でやっていく、そうするとより発展していくと思う。</p>
古賀会長	<p>担い手の問題は頭で考えると難しいことばかりだが、こども食堂を想像してみてもほしい。10年ほど前に大田区で始められて、それから毎年どんどん増えてきている。時代のニーズに合った、というのもそうだが、長続きしているのはむしろ「居場所的なつながり」というサービスが求められているからではないかと思う。熊本のこども食堂で活躍されているある女性の話をすると、その女性はそれまでPTAなどそういうことは何一つしたことが無かったが、テレビで大阪のこども食堂を見て“これだ”と直感して活動を始めたとのことだった。そうやって突然腹にストーンと落ちて活動を始めるような層も必ずいるということ、またその層のための受け皿を用意しておくこと。そういった意味での熊本市での取組で言うと、まちづく</p>

	<p>り懇話会がら区それぞれできたとき、大学が多くまた人口も多い東区が一番市民啓発に熱心であった。東部公民館を中心として、ファシリテーターなどの要素をプログラムに含んだ、市民の活動主体を作っていく公民館講座を実施していた。</p> <p>またもう一つ、今回の計画でも地域共生社会づくりという言葉が出てきているが、これを始めたのは富山県の社会福祉協議会のケアネット活動であり、面白いことにその中には子育て支援や高齢者支援だけでなく、雪かき支援といった地域の課題に即した発想まで含まれている。各校区で地域の5人くらいの担い手によるケアネットチームが作られ課題について議論し、そこで解決できないような課題があるときは専門機関を市社協や他のところから派遣する、そのコーディネートは県の社会福祉協議会が行っている。このような地域共生社会づくりが富山県では行われている。</p> <p>こういった例も参考にしながら、地域における活動が地域のニーズや課題に即したものであるのかどうか熟議する場を地域共生社会づくりのプロセス中に含めないと、地域の共感や協力者を得られないと思う。地域共生社会のポイントは“我がこと・丸ごと”、これを今回のプランの中で使うと面白い。また、“我がこと・丸ごと”を反対にすると”他人ごと”であり、他人ごとをどうやって我がことにするのか、その参画のはしごをどう上っていくのか、それが今日の議論のポイントでもある。</p>
鳥崎委員	<p>参画しやすい仕組みづくりを誰がやるのか、というところに戻ってしまうが、校区社協としては当然やらなければいけないと思っている。そして私が会長を務めている大江校区では、このことについてかなり考えているのだが、基本方針Ⅱの参画しやすい仕組みづくりやⅢのつながり続ける、という部分について、ある程度専門的にそれをやっていく人がほしい。それが先程の富山県の話でも出ていたコーディネート機能であり、市民や地域、団体、NPOなどをつなげると同時に、まちづくりにも携わっていくような人材・役割が求められている。地域福祉計画のこれからの7年間の中で取り組むべき大きな課題だと思う。本当はこれを市社協にやって頂けるとありがたいが、自治体によっては地域福祉コーディネーターという人を雇ってまち全体で福祉を創り上げている自治体もあるので、その地域にあった手段で、コーディネートをする専門機関・人員をぜひ設置してほしい。</p>
伊藤委員	<p>若い女性の転出問題についてだが、地域づくりにおいて、その転出の理由や背景にも目を向けて、どうしたら転出しないのか、まちの魅力をどう伝えていくのか、そういった観点も盛り込むと良いと思う。</p>
古賀会長	<p>ありがとうございました。では、本日の骨子案には皆様ご了承頂いたと</p>

ということで、この骨子案に事務局にて肉付けをして頂いて、次回はさらに議論を深めていきたいと思う。また、パブリックコメント等の手続きを考えると次回はある程度議論を成熟させる大きな山場となるため、事務局には事前の資料配布などご協力いただきたい。

【議事終了】